**第１５回観察会　2004年６月27日(日) 10：00～12：00　曇り**

**『六月の吉田山 ―夏至の候を**

 **たのしむ（吉田山の散策Part II）』**

**☆ガイドレポート：植物編**

先月に引き続き今月も休日開催の許可が得られず、残念ながら植物園には入園できませんでした。急遽吉田山の散策に変更しました。今にも雨の降りそうな天気だったのですが、８名の方にお越しいただき関係者ふくめ１２名で出かけました。裏参道より入りおもに西斜面のシイ林のなかを散策しました。
舗装路をはずれて昼なお暗い林にはいっていき、植物が葉に光をあびようとした結果として林の中からは空が見えない（林冠の閉鎖）、ということを確認しました。つづいて倒れた木々の幹や落葉落枝がきのこやゴキブリによって分解されている様子を観察しました。また、死んだ木を腐らせる（食べている）きのことは対照的に木の根の上で生活しているきのこ（菌根菌）がいるということを、土を掘ってシイの細根を手にとって観察しました。さいごに昆虫などを殺して食べているきのこ（冬虫夏草の仲間）も見ていただき、生物の３つの栄養獲得様式、Saprotroph（死んだものを食べる）、Biotroph（相手は生きたまま）、Necrotroph（相手を殺して食べる）、について概観しました。
梅雨のあいまでも林の中が意外に過ごしやすいことや、秋でなくともたくさんのきのこが生えるということがわかっていただけたのではないでしょうか。

出会った真菌類（きのこ）とおもな植物をあげておきます。
真菌：ヒビワレシロハツ、ヒメコナカブリツルタケ、ダイダイガサ、イタチタケ、クヌギタケ属菌数種、ニオイコベニタケ（？）、クモタケ、コウヤクタケ科の１種（スミレウロコタケもコウヤクタケ科です。）
細胞性粘菌：ツノホコリ
植物：テイカカズラ（開花中）、ツユクサ（開花中）など。

植物園内では、チャンチンやアオギリが咲いています。圃場のカボチャの他、ヤブミョウガ、ムラサキツユクサ、ノハカタカラクサ、ユウスゲ、ハマオモトの仲間（Crinum sp.）、ネジバナ、シロネ、ハンゲショウ（満開）、スイレン、テイカカズラ、キササゲ、ニンジンボク、コウホネ、ミゾカクシ、ムクゲ（満開）なども咲いています。いかにも梅雨のさなかという感じです。

ガイド：今村彰生さん（総合地球環境学研究所）

**☆ガイドレポート：昆虫編**

吉田山でであった昆虫のリストです。今回は少な目でした。
クマバチ、クロアゲハ、オオゴキブリ（幼虫）、シデムシ（幼虫）、ハネカクシの一種（きのこ）、ハナカミキリの一種。

ガイド：京都大学農学研究科昆虫研有志

**☆参加者の感想**

参加者の感想文です。実名・匿名の指定がないかたはすべて匿名にいたしました。ご了承ください。

* きのこの様々な生態を実際に手にとって見ることができて、面白かったです。植物園のハンゲショウ、ぜひみにいきたいです。　　　（学部生のかた）
* 普段じっくり観察することがないので、身近にこんなにたくさんのキノコがあるのに驚きました。森のゴキブリや他の小さな昆虫をじっくり見ると、違う世界を見るようで面白かったです。　　　　　（学部生浜まゆみさん）
* 木の根に生えるキノコ。菌糸の太さが木の根の10分の１のため吸収率が良く、養分が木にも流れているという話に感銘を受けた。　　（京大農学部手塚太郎さん）
* 初めての参加です。低山歩きしているうちに自然に関心を持つようになり、いろいろ知りたくなりました。（友人に教えてもらって）観察会に参加出来て少しづつ興味が広がっていくのが嬉しいです。次回も是非参加させてもらいたいです。ひとつでも新しいものを見たり覚えたり出来てよかったです。　　　　　　　　　　　　　（初めて参加した学外のかた）
* 吉田山での観察会ははじめて。吉田山には何度も来たことがあったが、こんなにつぶさにキノコをみたのははじめてでおもしろかった。吉田山は近いけど＜山＞ですね。　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* いろいろなきのこ。たのしく教えてもらいました。吉田山中の腐葉土の中の生物を見せてもらいました。櫻の木の白い菌糸。木の病気だと思っていました。高木の中を歩くだけでも気持ちよかったです。（近所のかた）
* 大文字山にも行ってみたい。一人でも歩けるように初めの導入部をお願いしたい。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）